

6-4 能登半島沖の海底地形

Submarine Topography off Noto Peninsula

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Japan Coast Guard

今回報告する「能登半島沖」の海域は富山湾から富山深海長谷末端付近までで、東部には南北にのびる富山舟状海盆位置し、その西縁を富山湾から続く富山深海長谷が北流している。能登半島北側には幅広い大陸棚が広がり、北部には白山瀬を含む海丘が点在している。

第1図に使用した資料は、沿岸の海の基本図(縮尺 1/5 万)、旧大陸棚の海の基本図(縮尺 1/20 万)、昭和62年度で得たマルチビーム測深機シービーム及び平成10年度で得たシービーム2000の資料(第3図、第4図)である。水深100mから200m以浅を除き、シービームの資料から作成した。

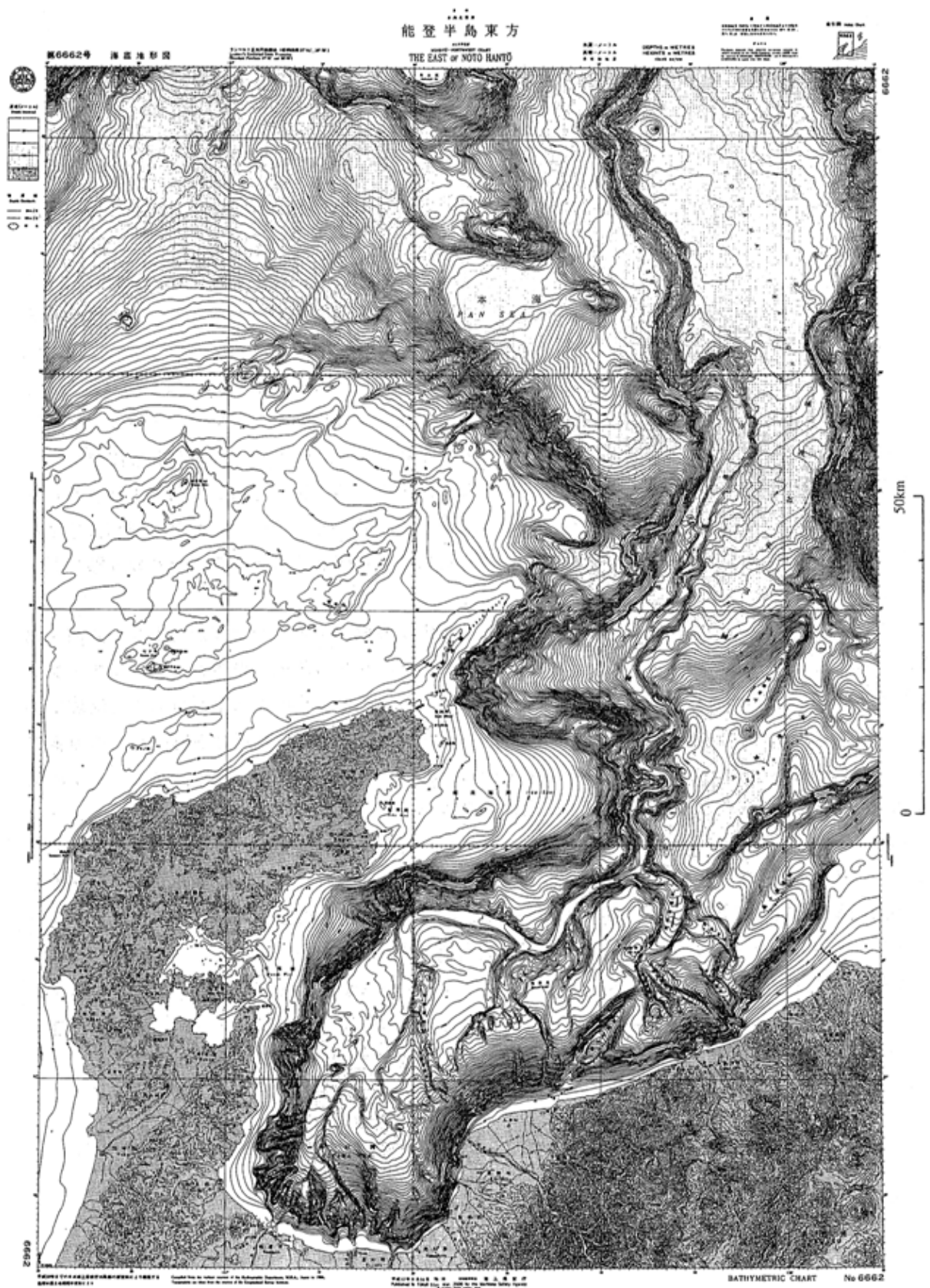
平成10年度の能登半島北方(第2図、第3図)及び富山湾(第4図)では測線間隔1海里から2海里の測深を行い、500m以浅の区域を除いて未測部分のない資料を得ている。ただし昭和62年度のシービームの資料は珠洲岬東方の平坦面でトンネル効果のため側方のビームをかなり取り除いたため大きなすきまができています。

第1図では富山湾の中央に位置する南北方向の小規模な海脚の東縁または西縁に南北、北西-南東、北東-南西の各方向のリニアメントが認められる。そのうちの北東-南西方向のリニアメントは陸上の呉羽山断層(活断層研究会¹⁾)の延長部に位置している。富山湾の東北東方には海脚や海丘の基部に北西-南東方向、北東-南西方向のリニアメント認められ、親不知海脚や鳥ヶ首海脚では平坦面との境に位置している。上越海盆南東縁には北東-南西、南北方向のリニアメントが南東側の平坦面とを境をなしている。能登半島北東方の富山深海長谷左岸の斜面基部にはリニアメントが北北東にのび、細長い平坦面との境界になっている。富山舟状海盆南部ではリニアメントが南北にのび、海盆の東縁を形成している。能登半島北方の大陸斜面ではリニアメントが北東-南西方向のび、溝を形成している。白山瀬の南側基部には東西から北西-南東方向にリニアメントがのびている。白山瀬南東方の海丘基部には西北西-東南東方向のリニアメントは認められる。

第2図では白山瀬の北西部に北西-南東方向のリニアメントが認められる。富山深海長谷西方の海丘群では海丘基部に北西-南東、北東-南西、南北、東西方向のリニアメントが、また富山舟状海盆や海盆東側斜面の海丘基部にも東西、北東-南西方向のリニアメントが認められる。

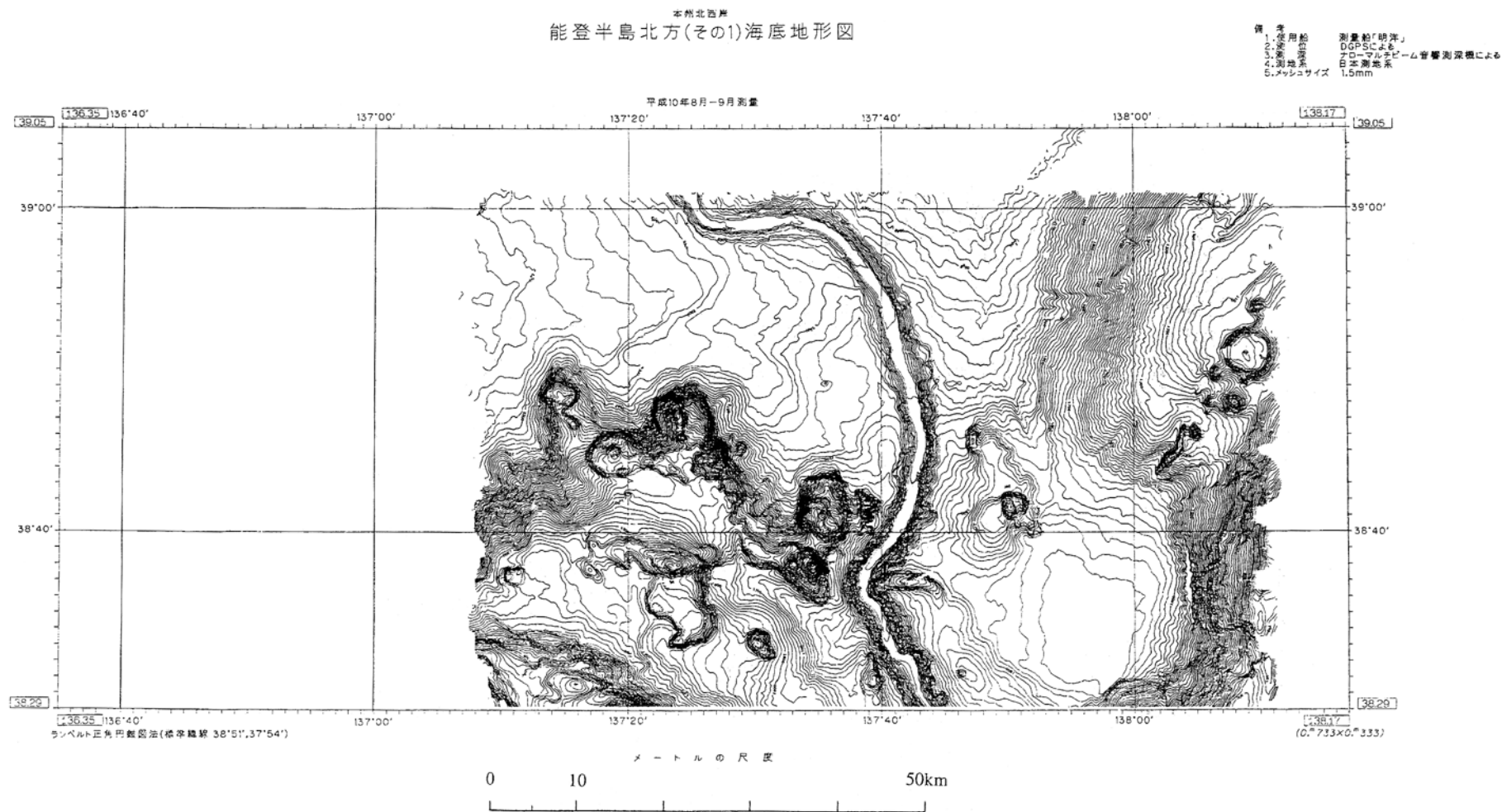
参 考 文 献

- 1) 活断層研究会(1991)新編日本の活断層, 東京大学出版会

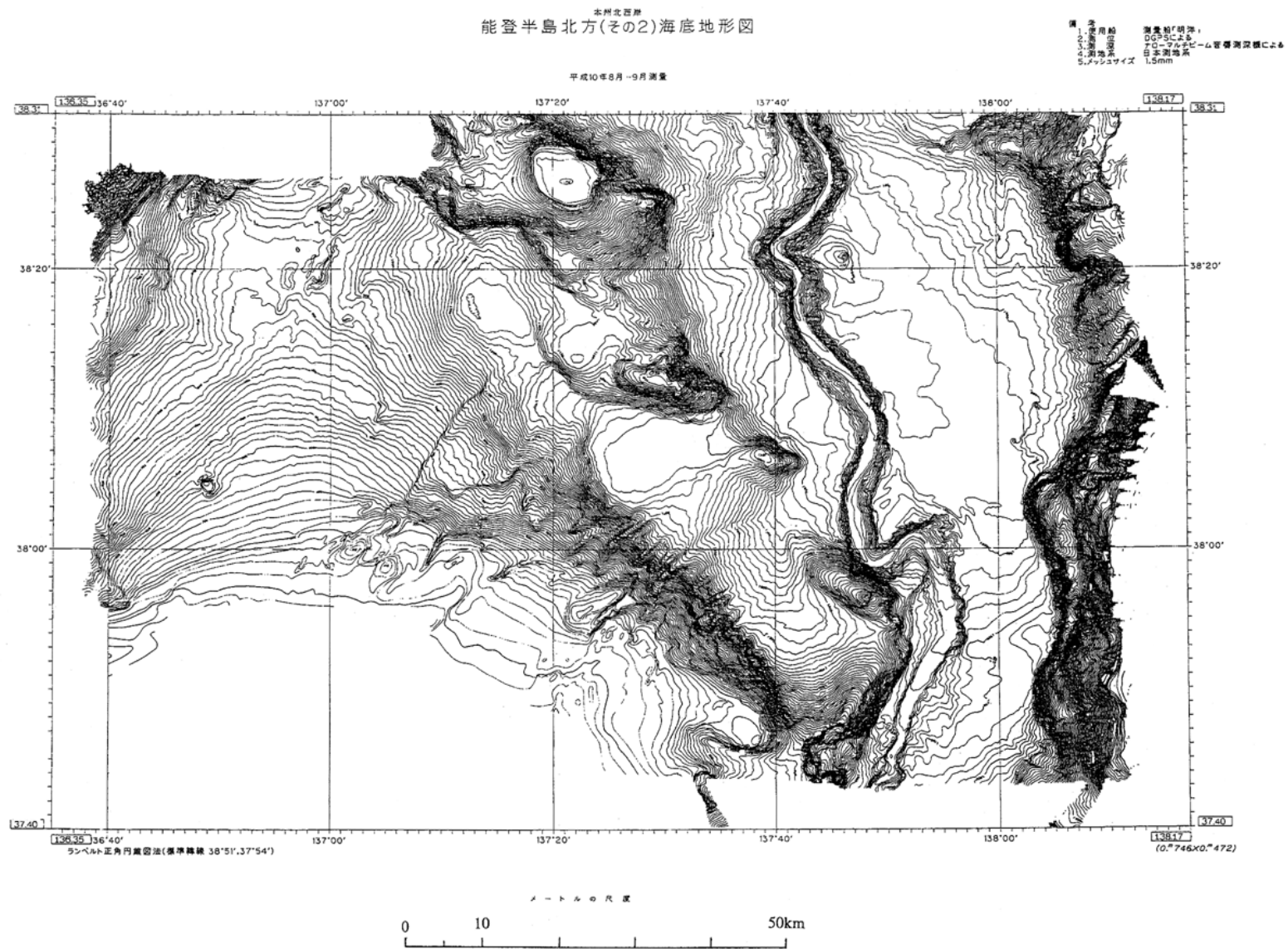


第1図 能登半島東方の海底地形図。

Fig.1 Bathymetric chart the east of Noto peninsula.



第2図 能登半島北方(その1)の海底地形図。
 Fig.2 Bathymetric chart the north of Noto peninsula.(1)



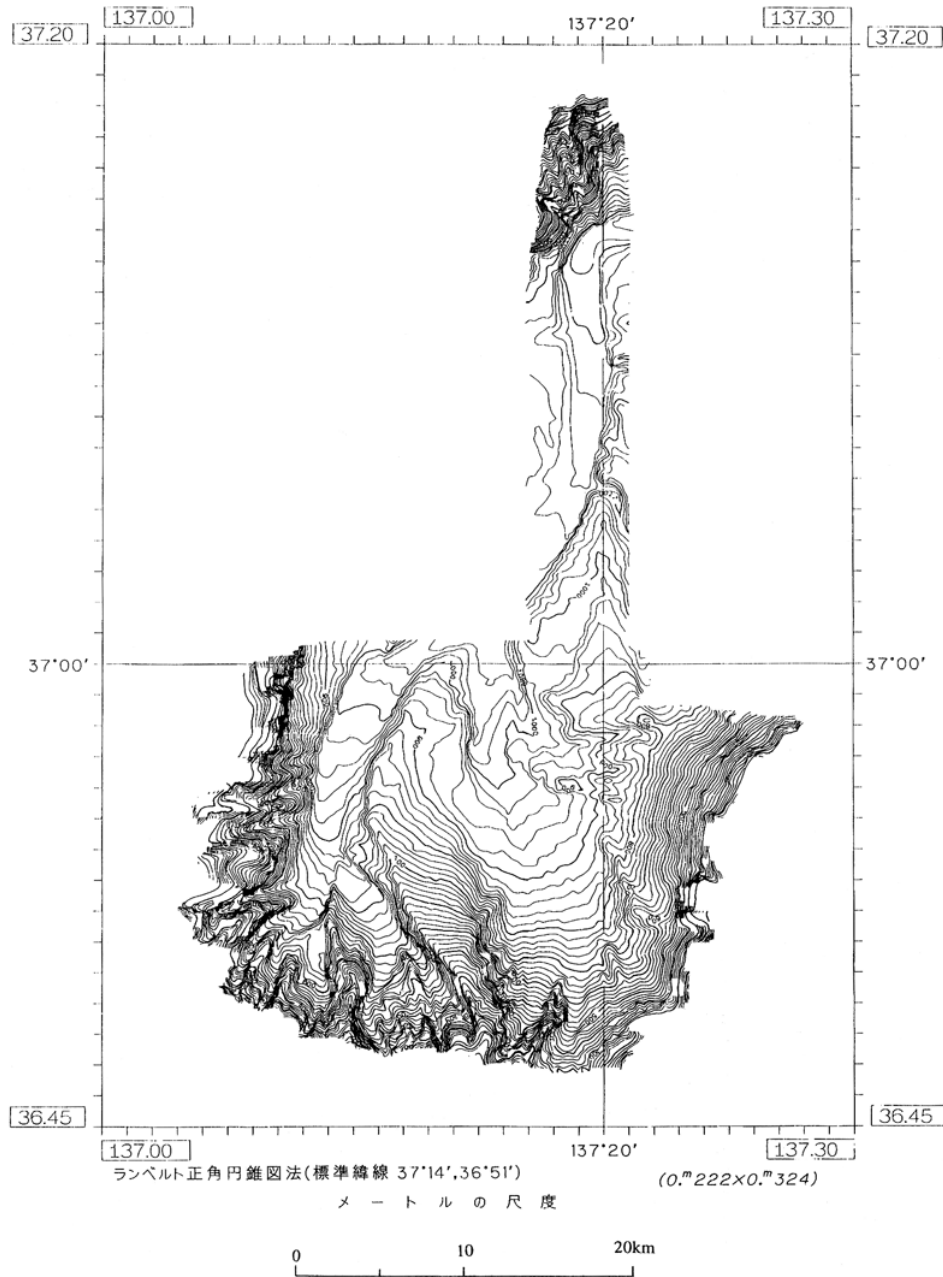
第3図 能登半島北方(その2)の海底地形図。

Fig.3 Bathymetric chart the north of Noto peninsula.(2)

本州北西岸
富山湾海底地形図

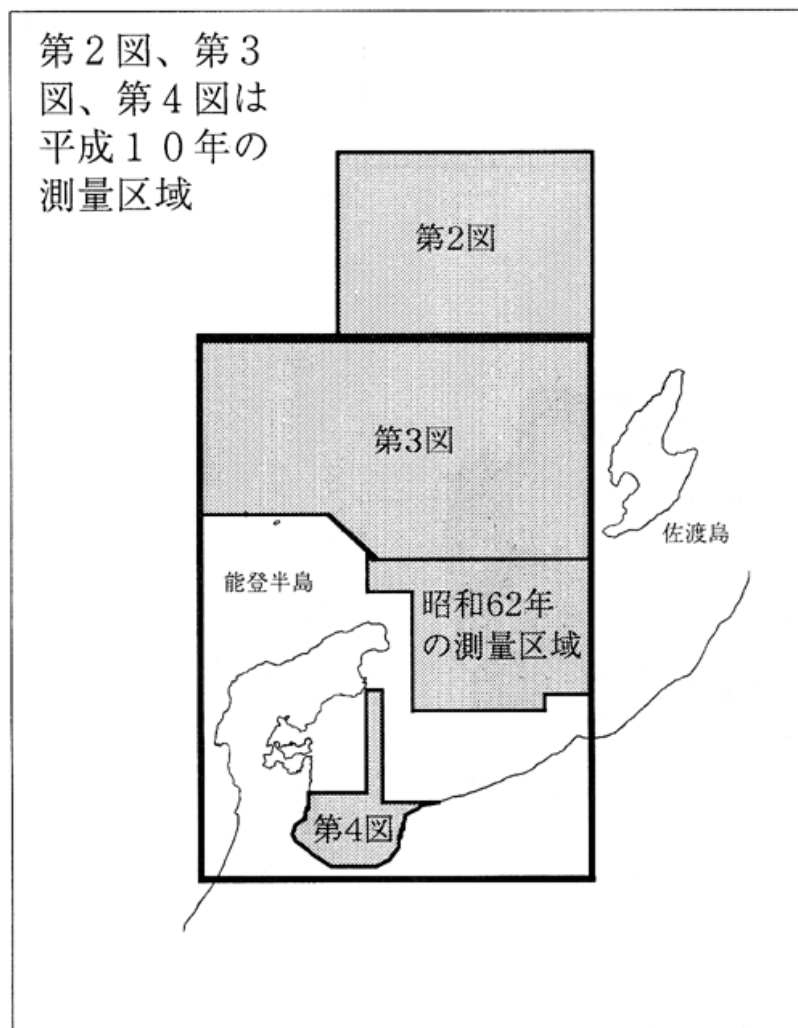
備考
1. 使用船 測量船「明洋」
2. 測位 DGPSによる
3. 測深 ナローマルチビーム測深機
4. 測地系 日本測地系
5. メッシュサイズ 1.5mm

平成10年8月～9月測量



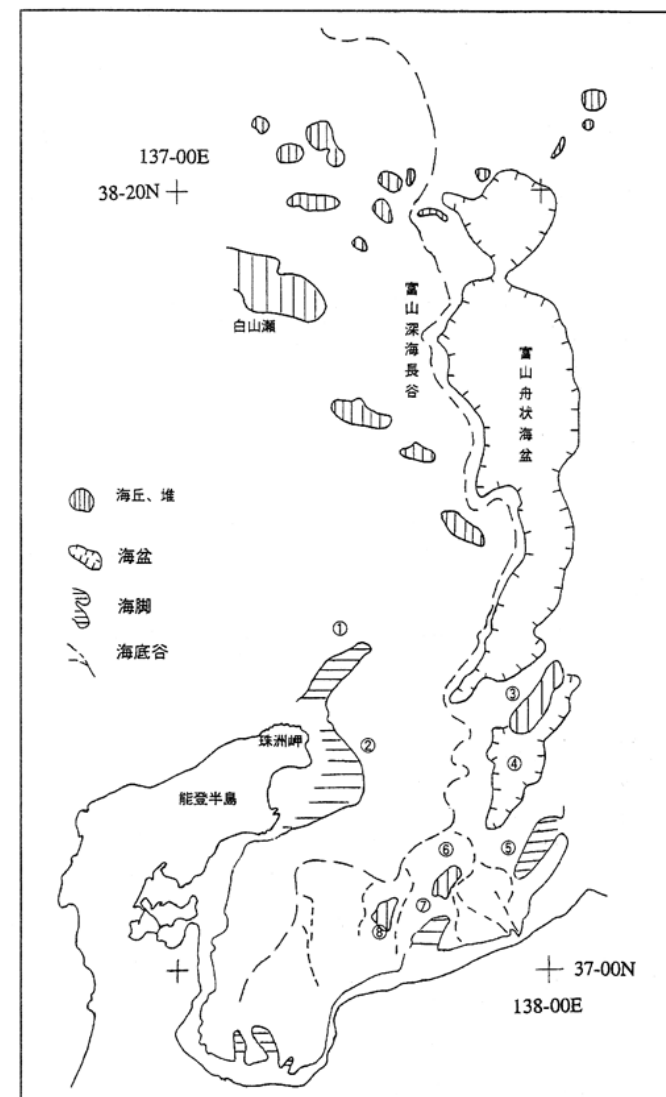
第4図 富山湾の海底地形図。

Fig.4 Bathymetric chart in Toyama bay.



第5図 シービーム，シービーム2000による測量区域。

Fig.5 Surveyed area by Sea beam and Sea beam 2000.



①禄剛海脚 ②飯田海脚 ③上越海丘 ④上越海盆
⑤鳥ヶ首海脚 ⑥青海海丘 ⑦親不知海脚 ⑧泊海丘

第6図 能登半島沖の海底地名。

Fig.6 Names of submarine topography off Noto peninsula.